

令和4年度 自立支援協議会研修会 報告

▼日時：令和4年12月13日(火) 13時から17時

▼場所：大府市役所地下 多目的ホール

▼出席者：当日参加54名（発表者16名、会場22名、Zoom16名） 見逃し配信 36名

▼内容：人材育成・人材確保を大きなテーマとし、市内福祉施設・医療機関の若手職員による、自法人・自事業所のプレゼンテーション会・及び交流会を実施。若手職員が自分の仕事を紹介することを通して、楽しさややりがい、福祉の仕事の魅力に改めて気づくとともに、所属先を超えた職員間の横のつながりを作ることを目的としたもの。また、福祉に関心のある若い世代も参加しやすいよう、会場参加のほかにZoom配信によるリモート参加、Youtubeを利用した後日配信の、3種類の参加形態を準備した（プレゼンテーション会のみ）。

▼研修タイトル

「ふくしのいいトコ再発見！ ～若手が語る福祉のホンネ～」

第一部 プレゼンテーション会 13時～15時30分

第二部 発表者による交流会 15時45分～17時

第一部発表チーム名（所属先）

- ①黄色のマーガレット（憩の郷）
- ②チームおおぶ社協（大府市社会福祉協議会）
- ③タイサンボク（憩の郷）
- ④初音ぼっち（リ・ハビリ初音）
- ⑤サンサン大府のいいところ伝え隊（仁志会 サンサン大府）
- ⑥ともみとなおみ（共和病院）
- ⑦就職トレーニングセンター（就職トレーニングセンター）
- ⑧トップガン（大府福祉会）

【参加者アンケートより（抜粋・要約）】

○良かった点

- ・それぞれの事業所、施設について詳しく知る機会になった。
- ・他事業所で働く人の“声”を聞くことはなかなかないので、事業所の雰囲気や内容をリアルに知ることができた。マイナス面も正直に話されていて、おもしろかった。
- ・若い方の、仕事に対する思いを知ることができた。若手の方の思いがつぶれないような環境づくりを考えていきたいと思った。
- ・資料作成を通して、自身のことをふり返り、今後の課題も明確になったように思う。
- ・人前で話す良い機会になった。誰かの前で発表する機会は希少で、自分自身成長できると思ったので、こういう機会が多くあってほしい。
- ・他事業所とのヨコのつながりができるのは良い機会だと感じた。また同様の研修を開催してほしい。
- ・面接の状況、支援の内容などの情報共有もできたら良いと思った。
- ・久しぶりに対面の研修に参加できてうれしかった。
- ・同じ市内でともにがんばっている皆さんの話を聞いて元気が出た。これまでの経験や悩みも共有でき、わかりあえた部分も多かった。

●良くなかった点

- ・聴衆は学生中心と聞いていたが、関係者の方がほとんどだったので、資料の作り方が適切だったか心配になった。
- ・全体の時間が少し長すぎて疲れてしまった。
- ・発表に慣れている人とそうでない人の差が出ており、発表内容に差ができてしまっていたのが残念だった。
- ・ホンネというより、事業所の紹介になってしまっているように感じた。

☆配信環境について

- ・音声聞き取りにくかったことと、会場（発表者）が映っていなかったことが残念だった。
- ・他の Zoom 参加者の音声がかぶってしまい、聞き取りにくいところがあった。

▼まとめ

研修会の第一部・第二部ともに、参加者が自分たちで名刺交換をするなど、交流を行っていた。第一部の質疑応答でも、参加者側から積極的な挙手があり、積極的に参加していただけた。今年度の研修は、これまでとは違い、若手や学生を対象した内容だったことも、ひとつの成果だったと考える。また、研修の申込やオンライン配信の準備のために、研修部会事務局の Google アカウント、メールアドレスを作成した。今後も引き続き活用していけると良いと思われる。

反省点として、オンライン配信のための Zoom 利用に関する知識不足から、準備のための打合せの回数が多くなってしまったことが挙げられる。それでも、当日になって、事前に取得していた ZoomID が使えなくなるトラブルがあったほか、映り具合や音声にも不備があったため、より丁寧な準備が必要だったことがわかった。また、参加者（発表者）の募集から資料提出までの期間が一ヶ月と短く、早くから募集をかけていれば、発表者も余裕をもって準備することができたのではと、事務局内外からの意見として聞かれている。また、研修会の時間設定も、各施設の支援時間等を考慮し、最適なものを考えていけると良い。

今回のような研修をくりかえし実施していくことで、福祉業界全体からのひとつの発信のかたちにつながっていくと思われる。いずれは、協議会発信ではなく、発表者が主体となって運営できることが望ましいと考える。